

平成26年度学校評価実施計画

学校名 大分県立大分豊府高等学校

前年度評価結果の概要	<p>(1) 中高一貫体制 ○中高一貫PJ会議が定例化し、分掌再編、高1新コース（内進生のみの応用Aクラス）の設置等、中高連続した体制ができつつある ●新分掌組織による業務の改善等に関する教職員一丸となった体制構築が完璧には機能していない面がある</p> <p>(2) 学力・進学力向上 ○現役で東大3、京大1、医学科6等、浪を含めると最難関13の合格があった ○高3で、学年を越えたチームTKDが機能した。高2は9月からチームTK・ND、高1は1月から最難関志望チームができた ●九大14を含めなど難関33と前年比174%と躍進したがと目標の40に届かなかった ●高1からの上位、中下位に応じた指導体制の確立など、幅広い学力層に対応する自ら学ぶ学校に進化すべくさらなる改善・改革が必要。 ●教科指導・進学指導体制の組織化が不十分な面があった</p> <p>(3) 安心・安全な学校 ○大分中央署・大分市役所の自転車マナーアップモデル校指定を受け交通事故が減少（30→23）した ●初冬に交通事故が多発したが有効な対策が打てなかった</p>
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標（H26年度）
創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育てる。	<p>1 中高一貫教育のあり方を研究し、6年間を通じて生徒を育成する教育指導システムを確立する</p> <p>(1) 世界標準の学力を育成する指導システムを確立する (2) 世界標準の人間力を育成する教育システムを確立する (3) 生きる力を育む進路指導システムの体系化を図るとともに、夢を叶える進学力を向上させる組織的対応システムを確立する (4) 安心して学べる環境づくり、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>2 中学・高校の全教職員が協働して、正確、迅速、効率的に業務を遂行できる学校経営体制を確立する</p>	<p>1 世界標準の学力向上 2 いじめの根絶（世界標準の人間力向上） 3 業務の精選、効率化・平準化</p>

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PLSL
1 世界標準の学力向上	進研模試におけるGTZ S1(10)、S23(40)、A1~B1(170)	中3夏から集団を形成し、自主的な学習体制の育成とチームTKDNの早期設置、組織的対応	中3.9月,高1.7月,高2.5月,高3.4月から始動 高2は9月からチームTKDNへ移行	進路学年
	「部活動と学習との両立ができています」と回答する生徒が80%以上(学習実態調査)	3年間を通した学力推移カルテ(学力向上計画)の策定と学期毎のPDCA	対外模試結果を継続的・組織的に検証し、模試検討会資料に反映する	教務教科
		部活動経営計画の策定と内規の見直し	PT設置、6月までに案作成、8月中に各部作成	特活学年
2 いじめの根絶(世界標準の人間力向上)	「授業が分かりやすく、理解しやすい」と回答する生徒の割合80%以上(授業アンケート)	授業満足度、充実度の測定、客観的データの集約が可能な授業アンケート・分析シートの内容改訂、結果を活用した授業改善	6月までに改善案完成、中高合同教科会議で検討	教務教科
	体系的な生徒指導システム構築	指導内規の整備と複数教職員による指導の徹底	組織的な生徒指導体制の確立(実務提要改正、特に指導体制・携帯電話持込対応)	指導学年
	安心して学校生活が送れていると回答する割合80%以上(学校生活アンケート)	学校生活アンケートの新規作成(いじめアンケートの進化)	1学期中に作成、2学期より実施	指導相談
3 業務の精選、効率化・平準化	学校行事全てを見直し精選、体系化及び質の向上(行事半減)	中高合同生徒会行事・学校行事の見直し(回数の削減、実施内容の改善(中高生が協働できる内容))	4月中に仮年間計画作成、	特活学年
	ミドルアップダウン型経営体制の構築(分掌業務の効率化と組織化)と業務の平準化と効率化	実施要領作成(係長)→分掌主任→領域主任会議→運営委員会の仕組みを周知徹底	当分の間、管理職による進行管理を徹底	校長教頭
	ICTを活用した効率的業務システム構築	紙ベースの職員アンケート廃止(全てWebアンケートで実施)	5月中にWebアンケート作成マニュアル作成	教務(情)教頭